

【論点3】事業強化に関する取組について

【主な論点】

1. 「青年国際交流事業の在り方検討会」以降の事業強化に関する取組について
2. 更なる事業強化に向けた取組について

(参考1)「青年国際交流事業の在り方検討会報告書」(令和4年、抜粋)

(事業強化の視点)

<募集選考段階>

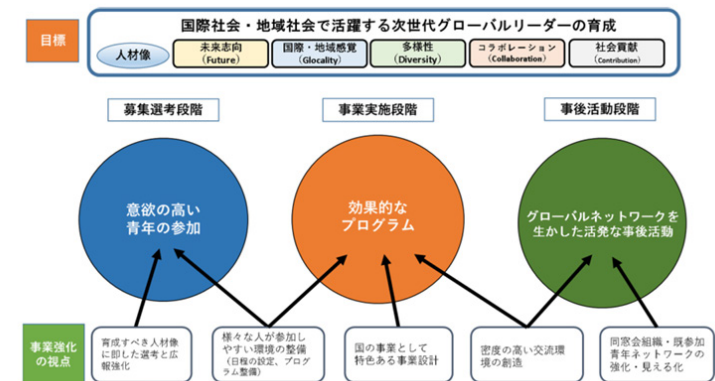
- ① 育成すべき人材像に即した選考と広報強化
- ② 様々な人が参加しやすい環境の整備(日程の設定等)

<事業実施段階>

- ② 様々な人が参加しやすい環境の整備(プログラムの整備等)
- ③ 密度の高い交流環境の創造
- ④ 国の事業として特色のある事業設計

<事後活動段階>

- ⑤ 同窓会組織、既参加青年ネットワークの強化・見える化



1. 募集選考段階

（広報）

- 意欲・問題意識の高い青年に本事業の価値を効果的に届けるため、
 - ① どのような者をターゲット層として設定すべきか（例．学生，社会人）。
 - ② 各ターゲット層に向けてどのようなメッセージ，方法でアプローチすることが効果的か。
- 地方からの応募者を増やすために、どのようなアプローチの仕方が効果的か。
- 広報の実施に当たり，大学，企業，地方自治体，同窓会組織，参加青年等，それぞれにどのような役割を期待して，どのような連携の在り方が考えられるか。
- 意欲はあるものの応募に至っていない層について，どのような参加上のハードル（日程，費用，職場・学校・家庭環境，心理的要因等）が存在すると考えられるか。どのような方法でハードルを下げるのが可能か。

（選考）

- 次世代グローバル・リーダーとしての潜在力を見極めるため，どのような観点（将来像，問題意識，実績，姿勢等）を重視して評価を行うことが望ましいか。
- 事業全体の学びや相乗効果を高めていく観点から，「多様性枠」の設定をどう考えるか（対象となる人材像，全体に占める割合，評価方法等）。
- 参加者の主体性や問題意識を高める観点から，特定のテーマや課題意識、プロジェクトを持って参加する仕組みについてどのように考えるか。

（参考１）令和４年検討会報告書の実施状況（「（別紙）新プログラムのイメージ」「【STEP２】事業実施段階」部分以外）（資料３－１）

（参考２）令和８年度内閣府青年国際交流事業 日本参加青年の募集・選考について（資料３－２）

（参考３）内閣府青年国際交流事業の広報に関する取組について（資料３－３）

2. 事業実施段階

- 事業の目的・趣旨を踏まえ、また国の事業としての「強み」を生かすため、どのような点に重点を置いてプログラム設計を行うべきか。
- 社会人を含む幅広い層の参加を促進するため、日程設計やプログラム内容について、どのような工夫が考えられるか。社会人のみを対象とするプログラム等についてどう考えるか。
- プログラムの設計・実施は、事業参加者がどのような状態となることを目指して行うべきか。また、その達成状況をどのような観点から捉えることができるか。
- プログラムの効果を高める観点から、事前学習や事前の関係構築（オンラインでの交流等）をどのように設計すべきか。

（参考）令和4年検討会報告書の実施状況（「（別紙）新プログラムのイメージ」「【STEP2】事業実施段階」部分以外）（資料3-1）

3. 事後活動段階

（ネットワークの強化）

- 事業参加後の学びや人的つながりを一過性のものとせず、中長期的なネットワークとして維持・発展させていくために、政府と同窓会組織はそれぞれどのような役割を担うことが期待されるか。
- 参加青年自身のネットワーク化及び事後活動への継続的な関与を促すため、募集選考、事業実施（事前研修及び交流プログラム）、事後の各段階を通じた一貫した人材育成プロセスとして、参加者に求める行動や役割をどのように設定するか。また、どのような仕掛けを講じることで、参加青年の主体的な関与や継続的な行動を引き出すことができるか。
- 事業・参加年度・地域・分野を越えたつながりを促進するため、どのような仕組みや機会づくりが考えられるか。

（ネットワークの見える化）

- 既参加青年のデータベース化や活動状況の「見える化」を進めるに当たり、
 - ①事業の成果や価値を社会に説明する観点、
 - ②新たな参加者の募集や既参加青年の参画意欲を高める観点、から、どのような情報を、どのような形で整理・発信することが望ましいか。

（資料1）令和4年検討会報告書の実施状況（「（別紙）新プログラムのイメージ」「【STEP2】事業実施段階」部分以外）（資料3－1）

（参考2）内閣府青年国際交流事業の事後活動について（資料3－4）

4. その他

- 事業内容の一層の向上を図るとともに、事業の意義や価値を対外的に適切に説明する観点から、どのような指標や情報を用いて取組の効果を把握し、次年度以降の取組への反映及び発信を行っていくべきか。

（参考1）現在の行政事業レビュー・レビューシートにおける活動・成果目標等

種別	期間	活動目標／成果目標	活動指標／成果指標
アウトプット		国際社会青年育成事業、日本・中国青年親善交流事業、日本・韓国青年親善交流事業、「世界青年の船」事業、「東南アジア青年の船」事業の実施を通して、参加青年に対し国際交流の機会を提供する。	左記5事業において、外国青年と交流を行った日本参加青年の人数
アウトカム	短期	青年国際交流事業フォローアップ調査（回収率50%以上）において、事業から1年後、「事業で得たリーダーシップ能力等を発揮する具体的機会を得た」に対する回答（①そう思う、②ややそう思う、③どちらでもない、④あまりそう思わない、⑤そう思わない）の5段階評価において、①及び②を選択した者の割合を80%以上とする。	青年国際交流事業フォローアップ調査において、事業から1年後、「事業で得たリーダーシップ能力等を発揮する具体的機会を得た」に対する影響（青年リーダー育成の自覚）を示す割合
アウトカム	長期	青年国際交流事業フォローアップ調査（回収率50%以上）において、事業から5年後、「事業で得たリーダーシップ能力等を発揮する具体的機会を得た」に対する回答（①そう思う、②ややそう思う、③どちらでもない、④あまりそう思わない、⑤そう思わない）の5段階評価において、①及び②を選択した者の割合を80%とする。	青年国際交流事業フォローアップ調査において、事業から5年後、「事業で得たリーダーシップ能力等を発揮する具体的機会を得た」に対する影響（青年リーダー育成の自覚）を示す割合

（参考2）ロジックモデル・事前分析表における測定指標・参考指標（評価期間：令和5年度～令和9年度）

【測定指標】 ①事業参加青年を対象とした事業効果把握調査の結果

【参考指標】 ①国際社会青年育成事業、日本・中国青年親善交流事業及び日本・韓国青年親善交流事業において、外国青年と交流を行った日本参加青年の人数

②国際社会青年育成事業、日本・中国青年親善交流事業及び日本・韓国青年親善交流事業において、日本青年と交流を行った外国参加青年の人数

③「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業において、外国青年と交流を行った日本参加青年の人数

④「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業において、日本青年と交流を行った外国参加青年の人数

（参考3）内閣府青年国際交流事業のロジックモデル及び指標について（イメージ）（資料3－6）

（以上）